

詠

毎日歌壇

加藤 治郎 選

生まれたら小さな箱を渡されて中身も知らないまま死んでゆく 川崎市 何村 俊秋

△評▽何が入っているのだろう。自分の使命は何か。そんなメッセージがあるのかもしれない。知らないまま死ぬのが悲しい。母が逝き私の時計と体重計とやら壊れてしまったようだ 大阪市 近藤 真弓

△評▽深い悲しみが私の日常を変えてしまった。事物が機能しなくなったのである。思い出して、はじめてスッキーニを食べた日のごとく正しい夏の日のごと。三鷹市 菅原 海春

雨上がりグラジオラスの浴衣を着て少女朝から星空を待つ 山口市 平野 充好

たましいに硝子(びん)を飼っているのですかいたくなるのも悲しくなるのも 堺市 初夏みどり

月光の瓦礫の跡をさびさらの中原中也の詩が流れる 摂津市 石少山 真夏

白い部屋 ひとがなへした海鳴りをクラモフォンが奏(な)つづけている 甲賀市 小倉のつら磨りガラス越しのわたしは疎(そ)鬱(ふさ)を知るの頃

水原 紫苑 選

子に愚(おろ)かならははじむ八月の抽象的な平和のなかで 横浜市 森山 緋紗

△評▽新生児の無垢(むく)な状態から人間界の黒点が現れる。あたかもこの国の「抽象的な平和」に黒点が打たれるように。見上(みあ)げれば巨(おほ)きなるあやとりのごと電線は夕空を巡(めぐ)れり 京都市 小池ひろみ

△評▽電線という巨大なあやとりは、夕空に何を描(え)くのだろうか。夜深(よる)くゆれる葉脈(かみぢ)いまここにだれかを統(と)べる喪失(そうしつ)がある 札幌市 鈴木 精良

こんなもん虫(むし)の食(く)つもんやからってスイカを俺(おれ)にくれた先生 松原市 たりりずむ

国(くに)により人形(にんぎょう)の贈(く)呈(てい)タプリーなり 呪(まじ)り付(つ)着(く)と未だ(いまだ)に危(あや)む 新発田市 佐藤 榮征

遊覧船(ゆうれんせん) ひとつの愛(あい)を終わ(お)らせたあなたが川のきらめきを言(い)つ 東京 奥山(おくやま)いずみ

振り回(まわ)すマンナ・カリナのハサミが胸(むね)に刺(さ)さって今(いま)も消(き)えない ふじみ野市 雨(あま)雨(あま)足(あし)もとのひぐらし葬(むす)うとしてふれば西(にし)の空(そら)へ飛(と)び立つ 名古屋(なごや)市 夏(なつ)生(なま) 薫(かおる)

伊藤 一彦 選

美(うつく)しき地球(ちきゅう)を眼下(がんげ)に望(のぞ)みつ心(こころ)交(ま)わりをせぬかミサイル 東京 富井(とみい)井(い)高志(たかし)

△評▽弾頭(だんとう)ミサイルが美しい地球(ちきゅう)を見て攻撃(こうげき)はもうやめたいと思(おも)わないか。作者(そふ)のSF的な夢(ゆめ)の背後(かゝ)には現(げん)実(じつ)への深い悲嘆(ひたん)が。AI(アイ)が時報(じ时报)のように読むニュース(きょう)さきほど人類(じんるい)が滅(め)亡(じやう)しました 名古屋(なごや)市 田中(たなか) 靖人(やすひと)

△評▽特別(とくべつ)のごととしてでなく人類(じんるい)の滅(め)亡(じやう)を伝えるAI(アイ)。恐(おそ)ろしいブラックユーモア(ブラックユーモア)。人類(じんるい)がやがて亡(な)びる前兆(ぜんせう)か暑(あつ)さはさらに厳(げん)しさを増(ぞ)す 東松山(とうしょうざん)市 奥田(おくだ) 新一(しんいち)

焼夷(しょうい)弾(だん)連想(れんさう)している人もいて八月(はつげつ)の花火(はなび)さまさまな色(いろ) 神戸(かふべ)市 中林(なかばやし) 照明(しょうめい)

鳥(とり)しろく白(しろ)く羽(は)ばたく八月(はつげつ)は最も(たいてい)音(ね)が光(ひかり)なりけり 雲南(うんなん)市 熱田(あつた) 一俊(かずゆき)

花(はな)の散(ち)る白(しろ)きカップ(カップ)にアルグレイ(アルグレイ)澄(よ)めり二人(ふたり)の静(しず)かなる午後(ごご) 京都市(きょうと) 小池(こいけ)ひろみ

こんなにも承認欲求(しんねんよくせう)強(つよ)くって歯車(はぐるま)の欠(か)けた心を撫(な)でる 奈良(なら)市 久保(くぼ) 祐子(ゆきこ)

米川千嘉子 選

AI(アイ)にプロバガンダ(プロバガンダ)を染(そ)み込(こ)ませ一人(ひとり)の為(ため)の地球(ちきゅう)をつくる 霧島(きりしま)市 秋野(あきの) 三歩(みほ)

△評▽「一人(ひとり)の為(ため)の地球(ちきゅう)」が絶対(ぜったい)ありえない妄想(まぼろし)だと言(い)い切(き)れるか。下句(げく)がリアルに響(ひび)く時代(じだい)になってしまったのだ。メキシコ(メキシコ)へ発(は)つ友(とも)のあり母(はは)のごとごとく説(せつ)得(とく)できなかつた 京都市(きょうと) 小池(こいけ)ひろみ

△評▽母(はは)を説(せつ)得(とく)できないまま意志(いし)を貫(ぬ)く友(とも)。その寂(さび)しがわかるから一層(いちじやう)応援(えんげい)する。戦争(せんそう)に行(い)った祖父(そふ)より戦争(せんそう)の来(き)た祖母(そぼ)がよく語(かた)ってくれた 東京(とうきょう) 富井(とみい)井(い)高志(たかし)

バイクごと朝焼(あさやき)けになるきみの眼(まなこ)になって世界(せかい)をわかりたかつた 花巻(はなまき)市 永汐(ながしほ) れい

肩書(かたがき)のない人生(じんせい)がやってくる真(ま)っ向(むか)い勝負(しやうぶ)おもしろくなる 西宮(さいみや)市 平木(ひらぎ)方(かた)美子(みこ)

初恋(こひぜん)の人の住所(じゅうしょ)は番地(ばんち)まで覚えていたが今は無(な)き町(まち) 福知山(ふくちやま)市 阪梨(さかばなし) 義春(よしかる)

ケアラ(ケアラ)ではなければ終(はつ)日(にち)病床(びんしょう)の母(はは)に添(そ)ひては幼時(わらわ)遊(あそ)びき 横浜(よこはま)市 芝(しば) 公男(こうお)叶(か)わぬ夢(ゆめ)はたくさんあるけれど鴉(カラス)銜(は)に乗(の)れた幸(さい)せ 前橋(まえばし)市 清水(しみず) 明子(あきこ)

投稿規定 はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051(住所不要)毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、〇〇先生(希望選者名)係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム

(https://mainichi.jp/kadan-haidan/)でも受け付けています。他媒体との二重投稿や同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開します。



こちらから投稿できます